

独断

注目商品

REVIEW

長靴の問題は、買い替えではなく、中敷きで解決

インソール 「らくらく隊（長靴用）ムレ対策



サイズはS(22.5~23.5cm)、M(24.0~25.0cm)、L(25.5~26.5cm)、XL(27.0~28.0cm)の4種類がある。購入後、自身の足のサイズに合わせ、つま先部分をはさみで切って用いる。希望小売価格は1,200円(税別)。

◆問い合わせ先

(株)村井
お客様窓口(03)3618-1005
<http://shoesfit.com>

私事で恐縮だが、筆者は東京マラソン2013への当選を機にランニングに目覚めた。その後、2015への再当選を経て、同年9月から今日に至るまで継続的に走っている。アドバイスは実業団ランナー出身で小社元社員の女性から得、2大会ともサブ4(4時間切り)を達成した。

その間、筆者は何度か故障している。腰痛だったり、足への違和感だったりいろいろいる。病院に行ってもレントゲンを撮ったが、骨折と診断されることはなかった。原因は足裏の

アーチの崩れだった。人間は、足の親指の付け根、小指の付け根、かかとの3点で立ち、5本の指を接地している。この3点で結ばれる緩い弧を描いたラインを「アーチ」と呼ぶ。アーチのおかげで歩く・走る・立つといった動作が行なえ、そのバランスが乱れると筆者のように影響が生じてくる。

アーチは細かく3つに分けられ、①内側縦アーチ(土踏まず)、②外側縦アーチ(小指の付け根)かかと、③横アーチ(親指の付け根)と、

小指の付け根)とがある。筆者の場合、①の土踏まずがいわばぺちゃんこになっており、ランニングによる度重なる衝撃に悲鳴を上げたというわけだ。

それが別売のインソール(中敷き)を装着したことで、何事もなかったかのごとく一気に解決した。以来、筆者はランニングシューズを新たに購入しても備え付けのインソールは使わず、アーチをサポートを強化したその別売のインソールを重宝している。

前置きが長くなってしまったが、ここから本題に入る。営農時に用いる靴といえば長靴だろう。作付品目によってはスニーカー派もいるかもしれない。長靴にはそもそもインソールがないことが多く、内側の底の部分は硬いうえ、足の甲の上の部分も結構すき間が空いていたりする。スニーカーを含め、仮にインソールがあっても、それは万人に合うよう設計されており、最低限の機能しか持たせていない。

今回紹介する(株)村井は靴の部品メーカーで、市販用でインソールを手がけている。対象範囲は幅広く、女性用から男性用、子ども用、幼児用、産前用、産後用まである。外反母趾対策や扁平足対策、腰痛対策、O脚対策など、足や靴のトラブルで悩む現代人をそれぞれ全方位から支えようとしている。

同社の長靴用(レインブーツ、ワークブーツを含む)商品には次の2つがある。

メインの「らくらく隊(長靴用)ムレ対策」は、ハチの巣のようなハニカム構造のキュービックアイクル(冷感加工)を採用しており、こもりがちな熱や湿気を放熱・放出することでむれにくくなっている。他社との差別化ポイントである立体形状では、アーチを正しい形に保ち、衝撃を和らげる働きを備えたアーチサポートパッドを3カ所に配置した。また、つま先部分を約5mm厚くしたことで長靴が足にフィットするようになっている。

果樹園や施設園芸をはじめ、長靴を履いて歩いたり、立つたりして作業する品目ではとくに有効だろう。機械に乗車して作業する人でも長靴がしつくり来ていなければ強い味方になるはずだ。

一方、形状が同じシリーズ商品は、吸湿・発熱素材を採用しており、温かさを保てるものになっている。

すべての土台となる足に収まりの悪さを感じている人は一度見直してみてもどうだろうか。(永井佳史)